

発 言 通 告 書

発言者氏名	井口一彦
発言の会議	平成31年 2月26日 本会議
発言の種類	質疑、一般質問、緊急質問、討論、その他
質疑等の方式	一括、一問一答
答弁を求める者	市長、上下水道局長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 施政方針について

- (1) 「自他共栄のための協調と連帯」とは、横須賀再興プランのどこに位置づけられるのか。
- (2) 「自他共栄」「協調と連帯」とは三浦半島全体を構想の中に取り込んでいくという意気込みなのかを伺う。
- (3) 横須賀の温暖な気候は都市としての強みであり大きな優位性であると思うが、シティーセールスにおいて本市のこのすばらしい特色をどのように展開するのか。

2 平成31年度予算案について

- (1) 予算編成に当たり、市長はどこに重点を置き、どのような思いを込めたのか。
- (2) 本市の困難な財政状況に直面し、それに立ち向かう市長の力強い意気込みを伺う。

3 キャッシュレス自治体の展開について

- (1) カード決済によるキャッシュレス時代の始まりに本市はどのような取り組みを考えているのか。
- (2) 地元の金融機関が行っているキャッシュレス決済に向けたサービスに対し、市として協力していくことが必要ではないか。
- (3) ボランティアポイントの利用や地元の商店街での買い物にも使える自治体ポイントカードの取り組みは、市民にも喜ばれ、地域の経済活動にも貢献すると思うがいかがか。
- (4) マイナンバーカードによる地域のキャッシュレス化や電子マネー利用が進められており、本市においても同カードを使った自治体ポイント制度を推進することが望まれるのではないか。
- (5) 多くの自治体でキャッシュレスの推進に取り組んでいる中、本市でも「キャッシュレスよこすか」を宣言し、具体的な取り組みに入るべきではないか。
- (6) 「IT導入補助金」「小規模事業者持続化補助金」「軽減税率対策補助金」「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」などをキャッシュレスへの取り組みに利用することも視野に入れてはいかがか。
- (7) 税金・料金の収受について、今後、全面的に現金の取り扱いを廃止していく考えはあるのか。

4 浦賀奉行所開設 300 周年記念事業について

- (1) 浦賀奉行所開設 300 周年記念事業において、浦賀の港を活用した浦賀の活性化につながる具体的な取り組みは検討しているのか。

5 スポーツコミッションについて

- (1) さいたま市ではスポーツを観光集客資源として生かすために、「さいたまスポーツコミッション」を設置してまちづくりに貢献しているが、市長はこの取り組みをどのように評価しているのか。

- (2) 市の行政組織の中に専門で継続して取り組む組織を設置すれば、全国的にも国際的にも顔の広い人材育成ができると考える。あるいは、横須賀市観光協会を組織改正し、市内各地の観光協会を傘下におさめ、スポーツコミッションとしての事業運営組織を設立し、一事業部として活動させる組織としてはいかがか。
- (3) 各種目のスポーツの協会に協力して、宿泊の手配等を組織的に対応することで大きな大会を誘致し、市内経済に貢献できるよう、横須賀市スポーツコミッションを活用してはいかがか。

6 インバウンド対応としての複数言語の観光案内について

- (1) インバウンドの増加に対応するため、地元企業であるNTT横須賀研究開発センタと協力して、本市の観光施設の案内板等に「かざして案内」のようなICT技術を導入する必要があると思うが、市長の考えを伺う。
- (2) 英語で併記される道路標識も、今後、全市的な普及が求められると思うがいかがか。

7 スポーツコンベンションについて

- (1) 不入斗公園における駐車場不足の問題や佐原2丁目公園における駐車場からの出庫に時間を要している問題など、市長は運動公園の駐車場の課題をどのように考えているのか。
- (2) 都市公園法が改正され、便益施設の建蔽率の上乗せが可能な特例も認められるようになったことから、佐原2丁目公園内に売店やレストハウスなどを設置してはどうか。

8 三浦按針の大河ドラマ化について

- (1) 少しずつ実を結んでいるANJINプロジェクト連絡協議会の取り組みをさらに加速させていく方策を考えているのか。
- (2) 今後の取り組みとして「按針のロゴ」の作成や「按針の歌」などを広く公募してはいかがか。

- (3) 逸見の浄土寺で最近見つかった資料に書かれている歴史的背景を広く発信すべきと考えるがいかがか。
- (4) 三浦按針没後 400 年のことし、市民の手による 400 回忌が計画されており、このような取り組みを内外に発信することで、大河ドラマ化を加速させると考えるが、市長の考えを伺う。

9 災害時の避難所について

- (1) 避難所の最低限の設備として必要なのは、洋式トイレ、シャワー室、更衣室、防災無線などであるが、これらの設備を普段のスポーツ活動の付属設備として組み込む程度であれば、対応が可能ではないか。

10 ペットの同行避難について

- (1) ペットの同行避難に関する普及啓発を今後どのように展開していくのか。
- (2) 市民に対する周知は訓練を通して行っていくべきと思うが、市長の見解を伺う。

11 町内会・自治会の事務負担の軽減について

- (1) 町内会等の地縁組織を守っていくためには依頼する仕事内容と運営費の両方の課題を解決しなければならないが、市として支援すべき課題についてはいかがお考えか。
- (2) 支援の仕方は「仕事の依頼を減らす」「仕事を頼むかわりに必要な資金を提供する」のどちらかだと思うが、市長はどのようにお考えか。

12 障害者スポーツの普及と支援について

- (1) 学校を含めた全ての場面で、障害がある方と一緒にスポーツができるまちづくりを目指していきたいと思うが、市長の考え

を伺う。

13 小児がん再ワクチンの導入について

- (1) 骨髄移植ドナー支援制度を県内で初めて導入した本市としても、小児がん再ワクチンを導入すべきと考えるが、市長の考えはいかがか。

14 病児・病後児保育について

- (1) 新たに設置する（仮称）中央こども園での病児・病後児保育が計画されているが、はぐくみかんや医師会館からも近く、また、健康な子どもと病気の子どもとを分けて保育するという観点からも諏訪幼稚園跡地で病児・病後児保育を行ってはどうか。
- (2) リアルタイムな対応が要求される病児医療のニーズを解決できるよう、スマートフォンなどを活用したソフト面の充実を進めるべきと考えるが、市長の考えはいかがか。

15 児童虐待の対応について

- (1) 本市では移転してきた児童の情報共有体制に問題はないか。
- (2) 国が虐待の可能性のある児童情報の扱いに関する新ルールや児童相談所と学校などの関係機関の連携強化を協議するとしているが、本市はこれを受け、新年度にどのような対応を考えているのか。

16 幼稚園・保育園の安全対策について

- (1) 安全対策強化の一環として市内の幼稚園や保育園などに緊急通報システムの設置を進めるべきと思うが、市長の考えを伺う。

17 農業政策について

- (1) すかなごっその駐車場拡大に協力し、さらに集客力を高められるようにすべきではないか。

18 農泊の今後の展開について

- (1) 長井地区だけでなく、秋谷・大楠地区や北下浦地区の方々にも協力をいただき、農泊事業をさらに拡大できれば、本市の観光戦略の大きな起爆剤になるのではないか。
- (2) 特にウインドサーフィンワールドカップを開催している北下浦地区は名前を売り込むためにもいい取り組みであると思うが、市長の考えを伺う。

19 ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジについて

- (1) ヨコスカ×スマートモビリティ・チャレンジ事業への市内民間企業からの協働提案はどのくらいあるのか。
- (2) 市としてどのように利用し、その将来像としてどのようなことを見据えているのか。
- (3) 「移動弱者」と呼ばれる方々の移動手段として、自動運転のミニバスの導入を早期に実現したいと思うが、市長は具体的にどのような構想をお持ちか。
- (4) 関連する民間企業等の取り組みをどのような形で支援していくのか伺う。
- (5) 本市をスマートモビリティ特区として進めていくことが望まれるが、市長の考えを伺う。
- (6) 本市の特徴である谷戸での上り下りの負担を軽減するものなど、住みやすさ、生活のしやすさに着目したモビリティの技術開発や実験に取り組んでいくことについて、市長の考えを伺う。

20 狭隘道路対策について

- (1) 市民が積極的に協力していけるような狭隘道路対策を進める

べきと思うが、市長の考えを伺う。

- (2) 建築基準法によるセットバックがなされた狹隘道路については、優先的に道路補修を実施するといった目に見えるインセンティブを用意することで、狹隘道路対策が進むのではないかと考えるがいかがか。

21 横須賀中央エリアの再開発について

- (1) 横須賀中央エリアにおける耐火・耐震化といった防災性の向上に向けて、どのような取り組みを考えているのか。
- (2) 横須賀中央駅周辺の再開発事業を検討している6つの組織における、現在の検討状況について伺う。
- (3) 再開発事業を検討する組織に対して、市はどのような支援を行っているのか。
- (4) 市街地再開発事業へ公共施設を導入し、再開発ビルにおけるシャワー効果だけでなく、周辺住民の利便性向上を図る必要があると考えるが、市長の考えを伺う。
- (5) 横須賀再興プランに記されている、民間事業者等と連携したにぎわいを生む体制とはどのような体制なのか。
- (6) 横須賀再興プランで音楽・エンターテインメントのまちづくりを目指しているが、音楽・エンターテインメントの場としての既存施設や新たな拠点とは、どのような場所を想定しているのか。

22 地域貢献企業認定制度の導入について

- (1) 地域貢献企業の認定マークを多くの企業が取得することで、信頼できる企業に本市の仕事を担ってもらえることになり、同時に本市経済の発展にもつながると思うが、市長の考えを伺う。

23 1万メートルプロムナードの魅力向上について

- (1) 1万メートルプロムナードの活用という視点から見て、旧三

笠駐車場跡地に誘致を進めているホテルをどのように位置づけていくのか。

- (2) 自転車の乗り入れについては遊歩道機能を確保したいという住民の意見もあるため、自転車を扱う組合や地元の自転車販売店などと協力して試乗イベントなどを検討してはいかがか。
- (3) 個人所有の船舶による猿島来訪など、海を通じた新たなルートの開拓について、市長の考えを伺う。
- (4) 走水水源地の一部を遊歩道化することについて、市長の考えを伺う。
- (5) 走水海水浴場の復活に向けて、市も積極的に支援をしていく必要があると思うが、市長の考えを伺う。

24 市営公園の名称変更の必要性について

- (1) 公園名称に「よこすか」を入れるといった工夫は、都市イメージを向上させていく上で非常に重要であると考えているが、市長の見解を伺う。

25 横須賀新港の新規フェリー一定期航路開設計画について

- (1) 今回の新規フェリー一定期航路開設計画は本市の発展において大きなチャンスと考えるが、このチャンスをどのように生かしていくのか。
- (2) 同計画は、三方が海に面する本市の海の魅力を活力に変える絶好の機会につながるものと考えているが、市長の考えを伺う。
- (3) 横須賀新港において、完成自動車の積み出しと今後のフェリー一定期航路とをどのようにすみ分け、併存させていくのか。
- (4) 完成自動車の積み出しではSOLAS対応を行っているが、フェリーが就航した後、この対応はどのような形になっていくのか、現時点で考えられる内容を伺う。
- (5) 横須賀新港に隣接するよこすかポートマーケットとどのよう

に連携し、どのように展開を図っていくのか。必要となるフェリー発着のターミナル機能についてもあわせて伺う。

- (6) SOLAS対応やよこすかポートマーケットとの連携などを含め、本市としてどの程度の財政的な負担を想定しているか。
- (7) フェリー航路が生み出す物流のインパクトについて、市長はどのように把握しているのか。港湾荷役事業、そして新港と荷主を結ぶ物流事業のそれぞれについて、市長の想定を伺う。
- (8) 新港と荷主を結ぶ物流事業のうち、市内事業者にはどのくらいの波及効果が期待できるのか。
- (9) 市内事業者への波及効果規模をより大きくするための支援策についても考慮すべきと考えるがいかがか。
- (10) フェリーの定期航路の就航を総括して市長の意気込みを伺う。

26 水道事業について

- (1) 重要なライフラインである水道本管耐震化の取り組み内容と目標について、上下水道局長の考えを伺う。
- (2) 鉛給水管を解消するための補助金制度について、予算金額を見直した背景と今後の対応、市民への周知方法などを上下水道局長に伺う。
- (3) 漏水調査業務などの発注も市内事業者の活性化につながると考えられるが、上下水道局長の考えを伺う。
- (4) 水道管耐震化工事に伴い実施される舗装工事を専門の工事業者に分離発注することも合理的であると思うが、上下水道局長の考えを伺う。

27 千代ヶ崎砲台跡について

- (1) 駐車場の整備についてはどのように考えているのか、教育長の考えを伺う。
- (2) 転落防止柵等の安全対策、電気、水道、トイレを含む管理施

設などの整備について、教育長の考えを伺う。

- (3) 史跡を末永く保存活用していくための整備に関し、補助金やクラウドファンディングなどによる財源確保を行う必要があると思うが、市長は財源確保についてどのようにお考えか。
- (4) 国指定史跡東京湾要塞跡保存活用計画に掲げる「地域における活用」について、市民参加をどのような形で具体化していくのか、教育長に伺う。
- (5) 史跡周辺地域との協働、連携のあり方についてはどのように考えているのか、市長の考えを伺う。
- (6) 史跡に隣接する観光農園の敷地内にある遺構を、史跡と一体として保存活用していくために、重要文化財としての追加指定が必要であると思うが、市長の考えを伺う。
- (7) 今後、千代ヶ崎砲台跡をどのように学校教育へ反映していくのか、教育長に伺う。
- (8) 千代ヶ崎砲台跡の見学だけでも魅力を十分に堪能できると思うが、今後は座学や現地見学会など、より深く関心が持たれるような取り組みも必要と考える。市長の考えを伺う。

28 市立中学校の部活動について

- (1) 休養日の設定や教員の負担軽減に向けた外部指導員導入などの取り組みについて、教員の方々はどのように考えているのか。
- (2) 教員の負担軽減に向けた取り組みは、保護者や生徒の理解を得ることが重要だと思うが、今後どのような説明を行い、理解をいただくのか。
- (3) 「部活動指導員」をどのような基準で採用し、学校側からの要望をどのように反映させ、生徒や保護者の要望をどのように聞いていくのか。また、今後どのように推進していくのか。
- (4) スポーツ能力測定という手法を用いて、本市の子どもたちにいろいろな可能性にチャレンジする機会を提供していただきたいと思うが、市長、教育長の考えを伺う。

29 横須賀市歌の活用と郷土愛の醸成について

- (1) 横須賀市歌の歌詞に登場する市内の名所をテーマにした観光事業に取り組んではいかがか。
- (2) 市立小学校の授業に横須賀市歌を取り入れることで、郷土愛の醸成につながると思う。小学校卒業時には全員が歌えるようになっているべきだと思うが、市長、教育長の考えを伺う。
- (3) 市長は、総合教育会議の席上で、「2月15日の市制記念日を学校閉庁日にできないか」と提案された。実現すれば、世代を超えて郷土愛を醸成できる機会になると考えるが、いつからの実施を考えているのか、教育長に伺う。

30 基地内の大学への市民等の就学支援について

- (1) 平成27年度からUMUC入学準備コースが開始されたが、減少傾向にある受講者数の実績について、市長はどのように評価しているのか。
- (2) 受講者数増加に向け、これまでどのような取り組みを行ってきたのか。また、今後、どのような新たな取り組みを考えているか、あわせて伺う。
- (3) UMUC入学準備コース修了者のうち、次のステップである正規コースに進学された方は何人くらいいるのか。
- (4) ブリッジプログラム受講者に対しアンケート調査を行い、課題や成果を把握し、新しい施策に反映させることが、受講者数の増加にもつながっていくと考えるが、市長に考えを伺う。

31 国際コミュニケーション能力育成事業について

- (1) 事業開始から既に10年近くがたっているが、どのような成果が得られたのか、教育長に伺う。
- (2) 新学習指導要領により、英語教育が普遍的な授業となった今、限りある再編交付金を財源として、この事業を継続して実施する必要はないと感じているが、教育長の考えを伺う。